

地域生活の継続を支援する市民後見人の実践事例

地域生活の継続を支援する 市民後見人の実践事例

69歳 男性 要介護1

両親と弟は亡くなり頼れる親族はいない

疾患：統合失調症 心疾患

精神保健福祉手帳2級所持

経済状況：障害厚生年金

A年3月市長申立て（後見類型）



生活歴

- 高校卒業後、市内のリサイクル工場で定年まで働いた
- 両親と弟の4人で暮らしていたが、両親が亡くなり、数年前に弟も病死した
- 定年後は市内のアパートで一人暮らし
日中はパチンコや友人と喫茶店に行ったりしていたが、体調を崩して入院した



生活上の課題

- 入院中にアパートの大家から市役所に家賃の滞納相談の連絡が入る
- 通帳を紛失し、市税や保険料等も滞納
- 服薬が出来ておらず幻覚妄想状態、脱水症状のため緊急入院
- 自動車事故の罰則金の未払い
- 市役所から包括支援センターと中核機関に相談が入る。入院中に本人を交えた会議にて本人は老人ホームへの入居を希望し、市長申立てによりA年7月法人が後見人として選任された(法人後見)

市民後見人選任までの経緯

法人後見 代理権行使

- ・有料老人ホーム入所契約
- ・居住用不動産許可処分の申立て
- ・自宅の荷物の処分
- ・家賃滞納など債務の弁済
- ・介護保険申請、精神保健福祉手帳の更新
- ・自家用車の処分
- ・自動車事故反則金滞納の支払い

財産管理等を含め有料老人ホームでの生活が落ち着いたタイミングで法人から市民後見人に交代((A+1)年3月)

市民後見人の後見活動①

時期		内容	○は後見人としての代理行為等
A年	12月	市民後見人選任分科会にてリレー事案の適否の検討	
A+1年	1月	中核機関から市民後見人へ打診 事前に本人と面談を行い、後見人交代について同意により法人が辞任選任の手続きを行う	
	3月	市民後見人へ審判確定 同時に法人が監督人就任	
	4月	金融機関にて後見人変更手続き 市役所にて送付先変更手続き(福祉課・保険年金課)	○ ○
	5月	市民後見人は週1回、施設を訪問、面談をする 毎月15日には友人たちと喫茶店で会っていた。「みんな元気かな。会いたいな。」と聞いて、喫茶店に行くことを施設と監督人に相談	
	6月	施設にて相談会議 本人を中心に「毎月15日にモーニングに行く」方法について 福祉有料運送にて往復は支援付き送迎→契約 喫茶店で会う仲間の理解と見守り連絡(本人と一緒に)	○
	7月	毎月15日はモーニングに参加し、これまでの習慣や友人達との関係性を継続する。面会時に嬉しそうな本人からの報告を聴く 喫茶店代と送迎費用の支払い	○

市民後見人の後見活動②

時期		内容	
A+2年	1月	訪問時、本人が以前に通っていたスナックに行きたいと何度か訴える。「施設に入ったらスナックにも行けんのか！」困った市民後見人は施設と監督人に相談	
	2月	本人を交えて施設で相談会議を行い、スナックへ行くための課題を洗い出した ①施設から夜間の外出(前例がない)②付き添い ③お酒と薬の飲み合わせ ④往復の交通手段 ⑤帰宅後の職員対応 ⑥費用(居酒屋→スナック) ⑦日程 お店の定休日とその他支援者の調整	
	3月	課題への対応方法 ①②以下の課題解決により施設長が判断 ②ボランティアの確保(本人の知り合いに依頼) ③受診時に医師に確認→ノンアルコールビールOK 受診同行 ④福祉有償運送の時間外対応 地域のたすけあいサービス依頼 ⑤施設職員の夜間対応 ⑥本人との話し合い お小遣を節約して確保する ⑦定休日は事前に市民後見人が調べ、その他の関係者の日程調整	○ ○
	3月	当日は予定通り出かけて無事に施設に戻ったと報告を受ける	

市民後見人の後見活動③

時期		内 容	
A+3年	1月	市内には本人が建てた両親と弟が眠るお墓がある 「お墓が気になる。きれいにしたい」 福祉有償運送を利用してお墓参りに市民後見人も同行する 本人が大切に思う様子を確認する 「俺が建てた墓なんだ！」	
	1月	お墓の管理費の支払い 本人に将来のお墓の管理についての意向を尋ねる 終末期の希望についても聞き取りをする	○
	3月	体調を崩して入院 入院契約と支払い 治療方針の説明に同席	○
	5月	入院中に施設が閉鎖することになったため、本人に説明、一時外出による見学同行等を行い入所施設の変更手続き 住民票の移動、市役所にて介護保険や医療保険等の変更手続き 終末期の希望について再度意向を確認する(お墓が気になる)	○ ○
	5月	墓地の管理組合には本人の友人がいるため、市民後見人が相談の場を設定した。友人との話し合いの結果、本人は墓じまいを決めた。 市民後見人は墓じまいの契約および費用の支払いをする	○
A+4年	11月	体調を崩し再入院 入院手続き、支払い 終末期医療について医師に本人の意向を伝える	○
	12月	本人が亡くなり、本人の意向に沿って死後事務を行う 家族のように悲しみ最後まで見送る	○

市民後見人の活動を振り返って

- 毎週訪問して本人の話をよく聴く
～生活歴や好きなこと、嫌いなこと、大切にしていること、やりたいことをなど本人のことをよく知ろうとする姿勢～
- 普通の暮らしの継続
喫茶店でのモーニング(地域の習慣)や居酒屋・スナック・お墓参り
施設内外の草取りや園芸を楽しむ
- 地域とのつながりを継続するため、地域の理解や支援者が広がる
- 終末期やお墓についての意向を確認することで最後まで本人らしい人生に寄り添う

